

駐日新大使「ド・ファリア」氏ハ夫人ノ懇望黙止難ク日本赴任ヲ躊躇シ居タルカ本邦大地震以後一層其ノ念ヲ深クシ同大使ハ日本赴任ヲ大統領迄断ハリ出タリ就テハ目下同大使ニ辞表提出方ヲ迫リ居レハ之ト共ニ目下在瑞西伯国公使「ド・ブランコ」氏ヲ其ノ後任ニ推ス管ナルガ同公使ハ日本赴任ヲ殊ノ外希望シ居レリト

本使ハ皇太子殿下御成婚式ハ二月初旬頃ナラント察セラルル処若シ我友邦中最モ親ミ深キ国ノ一ナル伯国カ其ノ際相

当代表者ヲシテ式ニ列セシメ得サル場合トモナレハ我(脱)スル所ナラント述ヘタルニ同大臣モ大ニ同感ナルニ付新大使ノ赴任ヲ大ニ急クヘシト謂ヘリ乍併若シ果シテ世間伝フル如ク御成婚式カ二月五日頃御挙行ニナルニ於テハ当国国柄トシテ新大使ノ到着ハ夫迄ニ間ニ合フ様相抄取ルヘキカ覺東ナキコトト存セラル御参考迄申添フ

事項四 勞農露国ノ内政ト対外関係

一六四 一月六日 中山関東庁警務局長ヨリ
芳沢外務省亜細亞局長宛

露国反過激派軍ト張作霖トノ提携交渉ニ関シ

報告ノ件

関機高収第七七号ノ一 (一月十三日接受)

大正十二年一月六日

中山関東庁警務局長(印)

芳沢外務省亜細亞局長殿

白軍ノ対張作霖秘密交渉

一、奉天ニ先発セル白軍司令部参謀長「ペトロフ」少将ニ対シ十二月七日「チデリックス」少将ハ電報ヲ以テ白軍ノ全部カ張作霖ノ麾下軍籍ニ編入セラルルヲ希望スル条件ヲ以テ各種ノ交渉ヲ為スヘキ旨委任シタリト但シ本件ハ極秘ニ付セラレアリ

一、奉天ニ於ケル「ペトロフ」少将ヲシテ張作霖ト秘密交渉ヲ為サシメツツアル状況ハ前記ノ如クナルカ十二月十八日同少将ヨリ「チデリックス」將軍ニ宛テタル来電ノ

四 勞農露国ノ内政ト対外関係 一六四 一六五

内容ニ拠レハ該件ハ未タ確實ナル回答ナク「スタルク」提督ノ海軍カ其行動ヲ分離スルハ進捗ニ障害アルモ詳細ハ同提督ノ通報ヲ待タスンハ真意ヲ測リ難シ云々

「チデリックス」將軍ハ本件交渉ニ一縷ノ望ヲ囑シ解決ノ速ナランコトヲ期待シ居レルカ今ヤ赤軍ノ蒙古方面侵略及東支線方面ニ強硬ナル行動ニ出テントシ支那ハ国境ノ脅威漸次加ハリツツアルヲ以テ之カ防衛ノ為必ス白軍ヲ利用シ提携シテ之ニ当ラントスルニ出ツヘキハ当然ノ帰結トシテ実現近キニアルヘシト自信シ居レリ

註 右同文ハ伊集院関東長官宮田内閣書記官長及元田拓殖事務局長ヘモ夫々送付セラレタリ

一六五 一月九日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

レーニンノ病状、其ノ死後ノ露国ノ政局ノ動向、其他露国ノ状勢ニ関スル露国通ドイツ人ノ談話報告ノ件

第五号

(一月十一日接受)

昨夜 Seetsch 教授ノ晚餐會ニテ当國有名ノ露國通教名ニ
會合セルガ談話ノ要領ヲ綜合スルニ「レーニン」今回ノ病
氣ハ腦力ノ銷沈ニシテ当地腦研究所長 Vogel 博士招聘ニ応
ジ莫斯科ニ赴ケルモ回復ハ到底見込ナシ「レーニン」ハ早
晩ニ活舞台ノ人ニ非ズ同人ノ死後權力ノ爭奪ノ為激烈ナル
鬭争起ルベキハ当然ノ勢ナルモ今日ニ於テハ未ダ何人ガ其
後繼者タルベキヤハ殆ド逆睹シ難シ彼ノ後繼者ガ純粹ナル
露西亜人ナラザルベカラズトノ説ハ重ヲ為ス様ナルモ現在
露人中ニハ傑出シタル人物無シ勢力結合ノ現状ヨリ推断ス
レバ「トロツキー」岳父タル「カメノフ」最有望トス同人
ハ猶太系露人ナルモ學識及其他ノ資格ヲ具有ス現政府ノ存
続スベキコトハ疑ヲ容ルルノ余地無シ

露國政府ガ今日列國ノ承認ヲ得ルコトニ前日ノ如ク熱心ナ
ラザルハ一面過去ノ經驗ニ依リ其容易ナラザルヲ自覺シタ
ルト他面農作良好ノ結果他ノ援助ニ依ルノ必要消滅シタル
ニ依ル

法典編纂事業ハ著々進行中ニテ刑法及民法中ノ若干編ハ既
ニ印刷セラレタリ

西比利亞鐵道ハ二週一回確實ニ運轉セラレ居ルノミナラズ

シテ日本領土ノ一部ニ前記避難將校ノ為避難地ヲ割カルル
ニ於テハ最モ都合ナリト考ヘ居レリ最モ吾人自身モ日本
昨今ノ現情ニ於テハ日本国内自身ニモ無職業者多キ有様故
右希望モ徒事ニ属スベキカ最近元山方面ヨリ帰來セル避難
露國人ノ婦女子連ハ日本官憲ノ好意ノ態度ニ對シ満腔ノ謝
意ヲ表シ居レリ云々ト

右及報告候 敬具

一六七 一月十一日 朝鮮總督府警務局長ヨリ
外務次官、陸軍次官等宛

反過激派軍ト張作霖トノ提携交渉ニ関シ報告

ノ件

高警第七七号

大正十二年一月十一日

(一月十五日接受)

朝鮮總督府警務局長

外務次官殿
陸軍次官殿
内閣書記官長殿
拓殖事務局長殿
在支公使殿

貴賓車ノ設備モアリ
外國貿易ハ実行上猶困難ナカラズ例ノ「ウォルフ」契約
ノ如キモ未ダ何等実行セラレズ云々

一六六 一月十日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

カッペリ軍ノ殘党ノ消息ニ関スル件

公第一五号 (一月二十二日接受)

大正十二年一月十日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

東支鐵道沿線白軍殘党消息ニ関スル件

元「カッペリ」軍一將校一月十日島田副領事來訪内話スル
所ニ抛レバ目下「チチハル」ニ於テ支那官憲ノ抑留ニ係ル
「カッペリ」軍殘党將校ハ計貳百六十三名(内妻十人子供八
人)ニシテ其外東支鐵道沿線各駅ニ散在セル者計約六百名
ナリ此等ハ何レモ現過激派政權ガ次第ニ穩和トナリ總テ合
法的ニ施政ヲ行フニ至リテ後始メテ露國ニ帰還シタキ考ヲ
有シ居リ隱忍時機ヲ待チ居ル次第ノ処若シ此際日本政府ニ

朝鮮軍司令官殿

朝鮮憲兵隊司令官殿

哈爾賓、奉天、吉林、間島總領事殿

琿春滯在中ノ白軍首領「デテリックス」將軍ハ予テ在奉天
白軍參謀長「ペトロフ」少將ヲシテ張作霖ニ對シ其麾下ニ
入ルヘキヲ条件トシテ白軍ノ收容方ヲ秘密ニ交渉セシメツ
ツアリシカ十二月十八日同少將ヨリ「デ」將軍宛來電ノ内
容ニ依レハ該件ハ未タ確實ナル回答ニ接セス「スタルク」
提督ノ海軍カ行動ヲ分離スルハ交渉進捗上障害アリ同提督
ノ通報ヲ待タスンハ真意測リ難シ云々トアリシト云フ而シ
テ「デ」將軍ハ本件交渉ニ一縷ノ望ヲ囑シ解決ノ速カナラ
ンコトヲ期シ焦慮シ居レルモノノ如ク十二月二十二日「ウ
エルジビキ」中將、臨時參謀部長「ブチコフ」少將、第二
副官「カラタエフ」大尉以下十名ノ幹部ニ密旨ヲ含メテ吉
林ニ急行セシメタルカ其内容ハ赤軍ノ蒙古侵略、中東鐵道
武力回收ニ腐心シツアルヲ機會トシ吉林督軍ヲ動カシ白
軍自ラ前線ニ立チテ之カ防衛ニ任スヘシト交渉スルニ在ル
モノノ如ク「デ」將軍ハ之等一行ニ全權ヲ委任スル旨ノ書
面ヲ交付セリト云フ右ハ張作霖ヘノ交渉迅速ニ運ハサルタ

メ更ニ此ノ拳ニ出テシモノノ如ク「ヂ」將軍ハ此際支那カ
白軍ヲ利用シテ赤軍ノ脅威ヲ防禦セントスルハ当然ノ帰結
ナリト自信シ居レリト云フ

一六八 二月九日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我が總領事館ヲ英米ト同等トスベキ旨ノ非公
式連絡ニ付報告ノ件

第六五号

(二月九日接受)

松村總領事出發前「ベリスキー」^(註)訪問ノ際極ク懇談の二日
露ノ關係ヲ談シ先方最近ノ我ニ對スル行動力往々國際ノ通
義ヲ無視シ且排庄の傾向アル為強ク日本人ノ感情ヲ損シ居
ルハ思フニ感情ト名譽心ニ強キ日本國民ノ特性ヲ解セザル
ニ依ルナランカ之ハ彼我ノ親交上甚タ好マシカラサルノミ
ナラス却テ彼等ノ意圖ト反對ノ結果ヲ招来スヘキニ依リ此
ノ点當局者ハ十分留意アリ然ル可シト談示シタル処「ベ」
ハ貴論之ヲ諒トス実ハ自分モ曩ノ軍艦用品課稅問題等ニ関
シテ当地當局トシテ極力中央ニ對シ對日感情上面白カラサ
ル旨電報シタルモ中央カ傾聴セサルハ遺憾トスルモ一方中
央ニ於テハ最近對日態度カ良好ニ向ヒツアルヤヲ思ハシ

ムルモノハ本日中央ヨリ貴總領事館待遇ニ関シ爾今英米領
事館同様非公公式ナカラ職務執行ヲ承認スヘキ旨ノ電訓ニ接
セリ本件ハ何レ不日公表ノ筈ナルモ右ニ依レハ地方的行違
アルニ拘ラス大局上外交惡化トモ思ハレス云々ト弁シ居タ
リ右ハ最近頻ニ当地方ニ謳ハレアル「ヨッフエ」ノ来邦ト
日露会商促進ニ利用セントノ策略ナランカト察セラルルモ
滿更「ベ」ノ虚構説トモ思ハレサルニ依リ取りアヘス

註 沿海革命委員會會長ナリ

一六九 二月二十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農政府ハ浦潮ニ外務省全權ヲ開設セシニ付
同全權庁トノ接觸ヲ認メラレルヨウ請訓ノ件

第九二号

(二月二十日接受)

往電第七五号ニ関シ

「エヌ・ハービン」ハ十八日ノ県機關紙ニ大要客年一月二
十四日付中央執行委員會条令(同年二月十一日公布)ニ依
リ今般浦潮市ニ外務省全權ヲ開設シ全權着任迄同庁書記官
タル「ハ」ガ事務ヲ処理スル旨及全權ノ職務權限令ヲ公示
セルガ同令ニ依レバ全權ハ中央ノ指揮ニ從ヒ管内駐在ノ外

國代表者ト交渉ヲ保チ必要ナル場合補助ヲ与フルト同時ニ
條約ノ履行ヲ監視シ外國艦船及人民ニ関スル事務ニ関シ地
方官ト接觸シ後者ハ海外事務ニ関シテハ全權ヲ經由スベシ
トアリ依テ本官ハ自今事務ノ性質ニ依リテハ依然所管官庁
ニ直接交渉スルヲ便トスベキモ稍々重要案件ニ関シテハ從
来ノ對「ベリスキー」乃至「ハービン」ノ例ニ倣ヒ同全權
庁ニ公文又ハ口頭ヲ以テ交渉シ然ルベシト存ゼラルルモ此
際特ニ心得フヘキ点有之ラバ御回示相成度右報告旁々為念
請訓ス

條例郵送ス

一七〇 二月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

勞農露國ノ開設セシ外務省ノ極東全權庁トノ

接觸ニ付回訓ノ件

第五五号

貴電第九二号ニ関シ

今後特別ノ事態發生セサル限り貴見ノ通措置セラレ差支ナ
シ

一七一 三月三日 在滿州里田中領事代理ヨリ
内田外務大臣宛

勞農露國政府高官ニヨル極東ノ地方行政事情
視察ニ関シ報告ノ件

公第七五号

大正十二年三月三日

在滿州里

領事代理 田中 文一郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「サヴェト」政府大官ノ極東視察ニ関スル件

極東露領ノ「サヴェト」露國ニ併合セラレ旧極東共和國政
府ノ代リニ極東ノ最高行政機關トシテ過渡期ノ機關タル極
東革命委員會ヲ設ケ一般施政ニ當ラシメタルカ爾来一般國
家のノモノハ漸次「モスクワ」政府當該省ニ直屬セシムル
コトナリ地方ニハ代表ヲ派シテ地方行政ヲ行ハシムルコ
トト今日迄其ノ代表ノ任命アリタルモノハ(一)對外商務(二)勞
農検査(三)交通(四)外務(五)財務(六)食糧及(七)郵便電信ニシテ是等
各省ノ大体方針ノ設定並ニ施政ヲナスニ當リ孰レモ「モス
クワ」政府ヨリ責任アル地位ニ在ルモノヲ極東ニ派シテ実

地調査ノ上夫々決定シタルカ今日迄出張セル重ナル委員會中重ナルモノハ第一ニ對外商務省外國貿易調節庁長「カントル」ヲ長トシ閣稅庁長「アンドレエフ」及「コストリチン」ヨリ成ルモノニシテ其ノ出張ノ結果ハ内國工業ノ保護政策確立外國貿易專売ノ施行極東特別關稅ノ決定及輸入禁止品目ノ制定トナレリ第二ニハ交通次官「セレブリヤコフ」ヲ長トシ西伯利亞產業部議長「シリヤモフ」交通中央委員會會長「クシナリヨフ」及「バキンスキイ」ヨリ成ルモノニシテ其結果浦潮ノ滯貨処分黒龍鐵道ヲ「マグダガツチ」駅ニ於テ二分シ「ウスリイ」及「チタ」鐵道ニ分割シ黒龍江船舶業改善並ニ滿州特產物ヲ黒龍江ニ依リ「ニコラエフスク」經由外國輸出ノ途ヲ開カントセルコトナルカ今般郵便電信大臣「ドブガレスキイ」ハ多數ノ專門家ト共ニ「チタ」ニ來リ一般狀態ヲ視察シ浦潮ニ急行シタリ其解決セントスル重要問題ハ未タ不明ナルモ近ク夫々實現スヘク尚第二流ノ措置トシテ火災電害及獸疫ノ國營保險ヲモ極東ニ施行スルコトトナリ各県郡ノ取扱所開設ノ為メ「ゴスストラフ」(國營保險)ノ代表者モ今般「チタ」ニ來着セリト右ノ如ク責任者ノ實地視察ニ依リ極東ニ於ケル「サヴェ

ト」政府ノ施設ハ比較的短期間ニ夫々決定的狀態ニ入ラントシツアリ

右報告申進候 敬具

一七二 三月二十二日 在米國植原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國ハ勞農露國政府ヲ承認シ得ザル旨ノ米國
國務長官ノ演說報告ノ件

第一九〇号 (三月二十四日接受)

三月二十一日露西亞承認婦人委員會代表者ヨリ露西亞ノ國情改善セル今日之カ承認ヲ拒ム理由ナキ旨陳述シタルニ對シ國務卿ハ大要左ノ通演說シタル上之ヲ公表シ承認反對ノ意向ヲ明示セリ
露西亞ニハ商工業ヲ必要トスルモ正式ノ政治的協定遂ケタリトテ商工業ハ成立スルモノニアラス生産力ヲ増進シ商工業ノ基礎ヲ作ルモノハ冒險者ノ投資ニアラスシテ永久ノ關係ヲ基礎トシテ取引ヲ行ヒ投資ニ先立チ其ノ安全有利ナルコトノ保証ヲ求ムル繼續的投資家ナリ故ニ外國ノ援助ヲ招致スル條件ハ露西亞官憲ノ手ニ存シ外部ヨリ之ヲ供給シ得ヘキ性質ノモノニアラス露西亞ノ對外通商ハ極メテ微々タ

ル程度ノモノニシテ露西亞ヲ承認スル國ト然ラサル國トノ間ニ差違ナキハ統計ニ示ス所ナリ露西亞トシテハ先ツ交換ノ元本ヲ生産スルカ急務ナリ輓近農業改善ハ喜フヘキモ尚頗ル不満足ニシテ工業運輸ノ情態ハ慘憺タルモノアリ法律及其ノ施行方法ニ變更アリシハ認ムヘキモ尚商工業ノ基準タルニ足ラス余ハ經濟關係ノ事項ト外交關係ノ問題トノ間ニ區別アルコトヲ認ムルモノニシテ一政府ノ承認ヲ決スル根本義ハ該政府カ國際上ノ義務ヲ履行スルノ能力ト意思トヲ示セルヤ否ヤニアリト思考ス國情安定ハ固ヨリ必要ナルモ廢棄沒收政策ノ遂行ニ依ル安定ノ如キハ無益ナリ露西亞ノ承認ニ關シ最モ肝要ナルハ國際的義務履行ニ對スル

ト雖モ寛大ナル支払ノ協定ト廢棄トハ別箇ノ問題ナリ余ハ右廢棄ニ關スル「ソヴィエト」ノ態度ヲ知ラント欲ス之迄廢棄ニ關シ種々提示セラレタルコトアルモ皆不可能ナル條件ヲ伴ヒ居レリ廢棄沒收政策ヲ助長スルノ誤レルハ勿論他國ヲ赤化セントスル努力モ決シテ之ヲ奨励スヘカラス而モ昨年中 Zinoviev, Lenin 及 Trotsky 等ハ世界革命ヲ高唱シタルニアラスヤ余ハ之等「ソヴィエト」政策ノ拋棄セラレタル實証ヲ求ムルモノナリ我政府ハ世界平和及相互諒解ノ増進ヲ念トスルモ吾人ノ希望スル世界ハ「ソヴィエト」ノ破壞的宣傳ヲ以テ脅カサルル世界ナラスシテ誠意及義務ノ承認及國際交通ノ健全ナル基礎ニ立ツ世界ナリ云々

一七三 三月二十三日 通信省通信局長ヨリ
外務省歐米局長宛

日本軍ノ露國反過激派ニ對スル援助ニ關シカ
ラハン外務委員代理ヨリ内田外相ヘ抗議電報
写送付ノ件

付記 三月十九日在北京クズネツォフ發在熱海ヨツフ
ニ宛電報第七五九号

外信第六七六号

大正十二年三月二十三日

通信省通信局長(印)

外務省欧米局長殿

別紙北京發第六四〇七号電報写及送付候

註 右別紙ハ在北京「クズネツォフ」ヨリ在熱海「ヨッフエ」宛

電報写(露語)ナルガ之ヲ省略シ訳文ヲ付記ス

尚右外信第六七六号ニ外務省係官ニ依ル左ノ書入アリ

「ダフチャン」哈爾濱出張中ニ付其ノ代理者「クヅネツォフ」

ヨリ渡辺領事經由外務大臣ニ送り來レル對白党援助抗議書ヲ

転電シ來リタルモノナリ

(付記)

三月十九日在北京クズネツォフ發在熱海ヨッフエ宛電報訳文

カラハン外務委員代理ヨリ内田外相宛抗議ノートヲ回報ノ件

第七五九号

在浦潮日本總領事ヲ通シ日本帝國政府外務大臣ニ宛テタル

左記外務委員「ノート」ヲ転電ス

露國政府ノ有スル信スヘキ報道ニ依レハ元山日本軍司令部

ハ極東ニ於ケル白軍ノ對露運動ニ關係ス情報ニ依レハ日本

軍司令部ノ援助ヲ受ケ新ニ對露干涉ヲ開始スルタメ白軍ノ

北方遠征軍編成セラレツツアルコト明ナリ

新聞紙ニ發表セラレタル一月二十五日付及同二十八日付在

元山白軍司令官「レベデフ」將軍宛日本軍司令部發書翰ノ

証明スル所ニヨレハ元山ノ白軍ハ「ベズアール」提督ノ率

ユル艦船ニ依リ北部樺太ニ渡航シ同地ニ於テ日本軍司令部

及ヒ日本倉庫ヨリ武器、糧食、彈藥ヲ受領スル筈ナリ尚ホ

糧秣ノ供給ニハ福田組商會關係ス之ト同時ニ「モルチャー

ノフ」將軍ノ率キル吉林方面ノ白軍モ之ニ参加センコトヲ

勧誘セラル

所謂旧「デデリクス」政府ノ閣員等ハ前記軍隊ニ倚リ福田

組商會ニ對シ韃靼海峽及黒竜江口ニ於ケル漁区ヲ提供スル

コトニ同意セリ

白軍ノ集中ニ応シ長春付近ニ於テハ日本軍ノ集中行ハル即

チ鐵道隊、工兵隊、航空隊、自働軍隊及砲兵隊並諸材料ノ

集中行ハル

南滿鐵道及朝鮮鐵道ハ朝鮮經由大連及「ハルビン」ニ軍隊

ヲ輸送スルヲ為メ多數輪轉材料ヲ準備中ナリ

「ロシヤ」社會主義連邦「ソヴィエト」共和國政府ハ既ニ

屢々日本帝國政府ニ向ツテ極東ニ於テ真ノ平和ヲ確立セン

トスル誠意アルコトヲ証明スル機會ヲ有シタリ然ルニ一部

日本人ハ極東ニ存在スル白軍ヲ援助シ「ソヴィエト」露國

スル件

第一二六号

最近露國勞農政府ハ帝國政府ニ對シ本年三月十六日付同政

府外相代理「カラハン」發帝國外務大臣宛公文ヲ以テ日本

軍ニ於テ白軍ヲ北樺太ニ派遣セム事ヲ計畫セリトシテ抗議

シ來レル処三月二十日衆議院本會議ニ於テ本件ニ關スル一

議員ノ質問ニ對シ外務大臣ハ帝國政府ニ於テ念ノ為取調ヘ

タル結果全然事實無根ナルコト明白トナレルノミナラス斯

ノ如キハ又到底有リ得ヘカラサル所ナリ現今元山ニ殘留セ

ル白軍避難民ヲ使喚シテ北樺太ニ送ルカ如キ無意味ノ事ニ

屬ス蓋シ露西亜側ノ言フ所ニ拠レハ日本ハ結局北樺太ヨリ

撤兵スヘキヲ以テ撤兵後日本ノ味方タルヘキ白軍ヲ駐屯セ

シメムトスルモノナリト為スカ如キモ元來北樺太ハ尼港事

件解決ノ保障トシテ現ニ帝國軍ニ於テ占領中ニシテ同事件

ノ解決ヲ見ル迄撤兵セサルハ政府ノ累次聲明セル所ナルヲ

以テ白軍ヲ北樺太ニ派遣スルカ如キコトハ絶対ニ有リ得ヘ

カラサル所ニシテ本件ハ露西亜側ノ誤解ニ非サレハ何等カ

ノ誤報ニ誤ラレ居ルモノト思考セラルル旨ヲ述ヘタリ

在仏大使ヘ転電アリタシ

ニ對シ武力干涉ヲナサントノ政策ヲ放棄セサルモノノ如シ
「ロシヤ」社會主義連邦「ソヴィエト」共和國政府ハ白軍
運動ヲ援助セントスル日本軍司令部ノ新計畫ニ對シ強硬ナ
ル抗議ヲ致スト共ニ極東ノ平和ヲ攪乱シタル結果發生スル
一切ノ結果ニ對シテハ日本帝國政府ニ其ノ責任ヲ嫁スルモ
ノナリ

莫斯科一九二三年三月十六日

第二六七号

「ロシヤ」社會主義連邦「ソヴィエト」共和国人

民外務委員代理

カラハン

本文新聞ニ發表有度シ

デウホフスキー

三月十七日

本文公表セリ

一七四 三月二十三日

内田外務大臣ヨリ
在米國植原大使宛(電報)

日本軍ガ白軍ヲ北樺太ニ派遣センコトヲ計画

セリトノ露國外相代理ノ我國外相宛抗議ニ関

四 勞農露國ノ内政ト對外關係 一七四

一七五 三月三十一日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農露國政府ガ現下ノ政策ヲ繼續スル限リ英
國ハ同政府ヲ正式承認セザル旨英外務次官下
院ニ於テ答弁ノ件

第二一六号 (四月二日接受)

三月二十九日ノ下院ニ於テ自由党及労働党側ヨリ仏露独連
衡ニシテ成立スルコトアラバ英國ノ地位ヲ危殆ナラシムル
コト及正式對露關係ヲ律セザル間ハ對露貿易ヲ確立スル能
ハザルコトヲ理由トシテ政府ノ勞農政府正式承認ヲ促シタ
ルニ對シ外務次官ハ前記連衡ニ關シテハ政府ニ於テモ充分
承認シ居ルモ右ハ政府ノ對露政策ヲ動カスニ足ラズ又勞農
政府ヲ承認セザル為對露貿易ノ重大部分ヲ失ヘリトモ思考
セズ政府ノ勞農政府承認ノ条件ハ債務ノ承認、宣伝ノ中
止、賠償契約關係、法律制度及司法制度ノ確定ニ在ルモ露
西亞ハ右諸条件ノ何レヲモ履行シタルコトナシ勞農政府ハ
其ノ現下ノ政策ニ追從スル限リ英國政府ニ對シ事実上ノ承
認以上ヲ期待スルコト能ハザル旨ヲ答弁セリ

シテ自家宣伝ノ一口実ト為セルニ外ナラスト論セリ

註 林大使ノ第二七四号電報ハ First of May Celebration Com-
mittee ノ樺太撤兵要求決議ニ關スルモノナル旨原書ニ書入
アリ

一七七 五月七日 内田外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

拘禁中ノ加賀美内務事務官ノ釈放ヲ求メ嚴重
抗議方訓電ノ件

第二一八号 至急

貴電第三四〇号ニ關シ加賀美カ職務執行ニ付何等カ露國官
憲ノ諒解ヲ得居リタルヤ当方ニ於テハ不明ナルカ全然諒解
ヲ得居ラストセハ特權享有ノ点ニ触ルルコトヲ避ケ專ラ実
際問題トシテ同人ハ露國側ヨリ入國ヲ許可セラレタル官吏
ニシテ専ラ貴地事情ノ視察研究ニ從事シ白党其他反過激派
運動ニ関与スルカ如キ者ニ非ルハ明白ノ義ナルニ拘ラス滯
在國ニ於テ之ヲ拘禁スルノ措置ニ出テタルハ事態頗ル穩當
ナラサルノミナラス我方ニ於テ目下本邦滯在中ナル「ヨッ
フェ」ニ對シ充分ナル保護ヲ与ヘ居レル事実ニ顧ミ本件露
國側ノ措置ハ必然本邦輿論ヲ激昂惡化セシムルモノナルニ

一七六 五月二日 在英國林大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ロンドン「メーデー」委員會日本軍ノサガレ
ンヨリ撤退要求ノ決議ヲ日本大使館ヘ提出ノ
件

第二九〇号 (五月三日接受)

往電第二七四号ニ關シ
同「コムミッティ」ハ三十日付書面ヲ以テ更ニ本使訪問ノ
為数名ノ委員ヲ派遣スヘキ旨ヲ通シ来リシカ五月一日労働
者諸派大会ノ為「ハイドパーク」ニ集合セル群集ハ其ノ決
議中本邦軍隊ノ露領薩哈噠即時撤退要求ノ一項ヲ掲ケ同会
終了後右群集ノ一部数百名ヨリ成レル行列ハ赤旗ヲ先頭ニ
押立テ警官護衛ノ下ニ当館前ニ押寄せ右決議文ヲ記載シタ
ル書面ヲ大使館從僕ニ交付ノ上一二弁士ノ大道演説ノ後革
命ノ歌ヲ奏シ別ニ何等ノ紛擾ヲ生セスシテ引揚ケタリ
右示威運動ニ對シ当地警察ハ特ニ警官数十名ヲ當館前ニ派
シ嚴重ニ警衛セリ尚一般公衆ハ右運動ヲ目シテ当地年中行
事ノ一ニ過キスト為シ二日「モーニング・ポスト」ノ如キ
ハ是レ露國共產党ノ手先カ薩哈噠ノ地理的位置ヲモ知ラス

付此際露國側ニ於テモ速ニ加賀美岡本ノ兩人ヲ釈放スルノ
措置ヲ執リ以テ此ノ上紛争ヲ拡大スルカ如キコトナカラ
ンコトヲ希望スル旨嚴重申入レラレタシ

一七八 五月七日 在獨國日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ヴォズネセンスキーノ露國ノ内情ニ關スル上
田書記官ニ對スル談話報告ノ件

第一〇四号 (五月八日接受)

五月五日上田書記官偶然「ヴォズネセンスキー」ト会合シ
翌日改メテ会見ノ上長時間ノ談ヲ為シタル趣ニテ露國內情
ニ關スル同人談話ノ大要左ノ通
「レーニン」ノ病氣ハ事實重大ニシテ到底回復ノ見込ナク
縱シ死ニ至ラストシテモ廢物同様ニシテ自ラ政治ヲ執ルヲ
得サルヘシ病氣ハ腦病ニシテ微毒ナリトノ説ハ事實ニアラ
ス同人死セハ勞農政府動搖シ瓦解スヘシト見ルハ大ナル間
違ナリ同政府ノ基礎ハ頗ル堅キヲ以テ縱シ「レーニン」死
ストモ政府ハ瓦解スルコトナカルヘシ是迄「レーニン」ハ
直接ニ自ラ内外政策方針ヲ定メ居リタルコトハ事實ナルモ
同人病氣ニ罹リタル以来全露中央執行委員會及共產党本部

ノ有力家ハ各部署ヲ定メテ意見ヲ具シ會議ノ上内外政策方針ヲ定メ就中外政策方針ハ「スターリン」及「ラデック」兩人ノ意見ニ依リ定マルヲ常トス「ラデック」ハ内閣ニ席ヲ有セサルモ其意見ハ閣員ニ重セラレ同人ハ先年「ロザン」會議ニ全權トシテ出席スル筈ノ処過去ニ於ケル同人ノ經歷香ハシカラサリシ關係上「チチェリン」出席シタル次第ナリ勞農政府ノ命脈カ欧州ノ形勢ニ關係スルヤ勿論ニシテ独仏ノ關係カ今日ノ如クニアラスシテ独逸カ安定スルニ至ラムカ露國勞農政府ノ命脈(脱)当分大丈夫タルノミナラス場合ニ依レハ世界革命ノ本目的達セラルヘシ予ハ先年外務省極東局長ノ職ヲ離レ一昨年来世界革命宣伝ノ為波斯方面ニアリタルカ「ヨッフエ」極東ニ向フニ付之カ隨員タルノ目的ヲ以テ彼ノ地ヲ引揚ケ莫斯科ニ歸リタルモ病ニ罹リ隨行スルヲ得サリキ予ハ數ヶ月前ヨリ独逸ニ来リ目下漢堡ニ本居ヲ構ヘ一兩日前柏林ニ来レルカ不日漢堡ニ歸リ場合ニ依レハ一ヶ月ヲ經テ莫斯科ニ歸ルヤモ保シ難シ予ハ「カラハン」ト意見合ハスシテ外務省ヲ去リタルモ今ヤ意見合シテ好關係トナレリ新經濟政策ニ関シ勞農政府部内ニハ「クラシン」ヲ主トシ外國資本家ニ讓歩スヘシトノ説アリ

ニ帰順ノ意アリ支那側官憲モ亦東支沿線地帯ニ於ケル事端再発ヲ恐レ此種本國帰還者ニ対シ輸送上便宜ヲ供与シ努メテ露人亡命者ノ満州退去策ニ腐心シツツアリテ目下ノ処反過激派運動熱ハ表面其ノ余影ヲ止メザルニ似タルモ「デツテリクス」軍幕僚トハ形体ヲ異ニスル旧將校帝政派ノ一味ニ於テ過激派討伐ノ初志ヲ翻サズ暗々裡ニ種々画策中ノモノアリ從來ノ推移ニ顧ミ鬭争の足場ヲ失ヒ切ツタル此等白色殘党ノ運動カ何程ノ価値アルヤハ問題外トシテ最近當館ニ於テ密ニ閲読セル「サリニコフ」少將ヨリ「セメノフ」將軍宛ノ密書ニ依レバ是等ノ策士連ハ伯林巴里等ニアル「キリル・パウロフ」大公ヲ奉ジテ帝政主義大露西亞國ノ復興ヲ念トスル帝政派最高會議ト連繫ヲ有スルモノノ如ク世界各國ノ所在ニ亡命セル露國民ハ系統ノ如何ヲ別トシ孰レカ共產主義ヲ露國ニ容認シ難キト為ス人士ナラザルハナク一般世界ノ政情不安「ルール」地方事件ヨリ第二ノ世界大戰勃発ノ機運ヨリ共產主義ヲ標榜スル「ソウエート」政府ハ目下此戰爭ニ導ク鉅火ヲ投ジツツアリテ必ズ戰爭國當事者ノ列ニ参与スベク此形勢ハ明カニ民族擁護運動延イテハ皇勅ヲ奉ジ統一の不可分離ノ大露西亞復興事業ヲ起シ得

ルモ讓歩ハ危險ナリ英國政府ハ印度方面ノ關係上勞農政府ヲ敵視スルニ至リシハ事實ニシテ英國ハ露國ニ出兵スルノ目的ヲ有ス併シ今次出兵ハ輿論ノ反對アリテ問題トナラサルヲ以テ英國政府ハ今輿論ヲ作ルコトニ努力セリ最近英國ハ露國ニ於ケル加特力僧侶処刑ニ関シ強硬ノ態度ニ出テツツアルハ之カ為ナリ

在歐各大使ヘ暗送セリ

一七九 五月八日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

露國反過激派運動者ノ消息ニ関スル件

公第四一二号 (五月十六日接受)

大正十二年五月八日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

昨年晩秋「デツテリクス」軍ノ浦塩落シテ以来武力の抗争ニ依ル反過激派運動ハ極東ヨリ其姿ヲ没シ白色殘党ハ朝夕ニ迫ル饑餓ノ前ニ見テ無殘ヤ異郷ニ亡命ノ嘆ヲ悔ヒツツアリ一部ノ將卒ハ故郷忘レ難シノ念切ニ「ポリシエヴィキ」

ル曙光ヲ認メ来ラントス只從來ノ祖國擁護運動ガ失敗ニ終レバ戰闘ニ當リ統一アル中心勢力ト統一セル戰闘線ヲ有セザリシ点ニ存ス又戰闘モ殆ド盲目的ニ行ハレ民衆ヲ理解セシムベキ直截簡明ノ標套語ヲ欠キ其間公正ノインフォォーメーションモ脈絡モナク民衆ノ信頼ヲ繋ギ得ザリシコト最大失敗原因ナリトス

惟フニ「アレクセーエフ」、「コロニコフ」、「コルチャツク」將軍ノ如キ献身の愛國ノ士亡キ後彼等ノ衣鉢ヲ継ギテ統一の民族の大露西亞復興ノ任ニ膺リ得ベキモノ閣下ヲ措イテ他ニナク吾曹ハ自己ノ知識ト志力ト經濟ト熱意ヲ捧ゲ閣下ヲ極東ニ於ケル祖國運動ノ盟主ト仰ギ世界大戰ノ警鐘放タレントスル以前ニ糾合結束シ復興運動ノ基礎ヲ堅ムル要アルヲ思フモノナリ云云ト本文ノ内容ハ堂々數萬言ヲ列ネ或ハ世界ノ大勢ヲ説キ或ハ過去反過激派運動ノ經過失敗ヨリ自覺ニ至ル過程ヲ叙シ勞農國ノ内部ヨリ農民バルチザンノ反間蹶起ニ及ビ更ニ東支鐵道沿線ニ鬱積セル亡命人士ノ心理ヲ語リテ極東ニ緩衝地帶創設ヲ言及ス其ノ言ノ壯ニシテ雄渾氣魄ノ念躍如スルモノアルニ似タルモ仔細ニ之ヲ觀シ来ル時凋落シ行ク自己ノ立場ヲ既倒ニ支ヘントスル利

己の野望ト断ゼザルヲ得ズ滿州里海拉爾方面ヲ遍歴シテ民心ノ帰向ヲ探リ得タリト称スル「アルタモボボフ」中將ノ云フ所ニヨレバ海拉爾商業界ノ牛耳ヲ握ル「スベチニコフ」及ビ滿州里ノ「ブルマキン」ガ自党有力ノ士ナルハ勿論滿州里市長トシテ且又社会各方面ノ巨頭トシテ重キヲ為ス「サベルキン」ハ嘗テ左統ニ接近シタルモ最近支那側政策ノ變更ト同時ニ自己ノ非ヲ悟リ目下充分信頼シ得付属地ノ一般社会民衆綜合ノ為ニハ非軍人派有力人士ノ手ヲ經テ行動セザル可カラズ避難民ニ向ツテ我方針ヲ及ボスハ不可ニシテ永ク憐情ニスガリ衣食スルニ馴レ漸ク怠惰性ヲ来シ節守心ニ欠ケリ云云ト一隻眼ヲ有スル見解ト称スルモ人心我ニ有リトシ直接行動ノ階段視スルモ亦早計ノ嫌ナキ能ハズ何トナレバ露領外ニ放浪スル露人ハ何レカ反過激派主義者ナラザルナキモ之ト抗争ニ就テハ過去五年ノ苦キ經驗ガ俄ニ不可能性ヲ首肯シ難キ立場ニ置カレアルヲ以テナリ最後ニ叙上反過激派運動ノ新策士ヲ挙グレバ參謀將校「サリニコフ」少將同「コレスニコフ」大佐同「カラウシン」大佐同「ボボフ」大佐「シチン」大佐「ボボフ」中佐トシ「アルタモボボフ」中將モ亦其ノ一員トス「セメノフ」將

若シ先方ニ於テ「ヨッフエ」ニ貴官ト同様ノ資格地位ヲ認メシメントスル意向アルニ於テハ貿易事務官制度ニ同意シタル上彼ヲ事務官ニ任命スレハ可ナル次第ナリ且前頭貴電ニ依レハ「ゲ、べ、ウ」部長ハ數日後加賀美等ヲ解放ノ管ナル旨語リタリト次第モアルニ付本件釈放方ニ付テハ依然貴官ヨリ「ハーヴィン」ニ交渉セラルルヲ適當ト認ムルニ付先方ニ對シテ前記政治部長ノ言質ヲ楯トスルト共ニ往電二一八号ノ趣旨ニヨリ可成速ニ本件兩名ヲ釈放スル様交渉ニ努メラレタシ尙貴電末段本人召還ノ義ハ本人釈放後ノ問題トシテ目下当方ニ於テ講究中ナルカ右ハ貴官限りノ御含迄

一八一 五月十四日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮官憲ノ反革命派ニ對スル示威運動ニ関スル件

第三八五号

(五月十五日接受)

往電第三八一号ニ関シ午後四時頃ヨリ再ビ当地軍隊ハ示威運動ヲ始メ七時頃迄數回ノ勞働団体ト街路ヲ練リ歩キタルガ当日恰モ在「ローザンヌ」代表「ウラロフスキー」暗殺

軍ニ与ヘタル密書ハ所謂以上ノ策士ノ連署セルモノニ係リ本年二月九日付起草ナレドモ故アリテ「セメノフ」將軍ニ到達セザリシモノヲ偶々入手閱覽セルモノナリ因ニ右人名中「コレスニコフ」大佐ハ生粹ノ帝制派主義者ニシテ常ニ「ソウエート」新聞紙ニ抛リ堂々ノ論陣ヲ語リ出デテハ各処討論会ニ於テ自己抱懷ノ意見ヲ吐露シ其雄弁ハサトーフスキーリジエフスキート並ンデ当地反過激派弁論界ノ双壁ト目サルル人士ナリ

右何等御參考迄此段及報告候 敬具

寫滿州里領事代理送付

一八〇 五月十四日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

加賀美事務官ノ釈放問題ニ付再ビ訓令ノ件

第二四二号

貴電第三七四号末段ニ関シ

後藤子ト「ヨッフエ」トノ話合ハ私的会谈ニ過キスシテ帝國政府ハ「ヨッフエ」ニ對シ外交官又ハ公ノ地位ヲ認メタルコト無キヲ以テ總テノ問題ヲ「ヨッフエ」ニ交渉スルコトハ甚タ面白カラサル結果ヲ来スコト明カナルノミナラス

ノ報伝ハルヤ赤旗紙ハ号外ヲ発シテ英國政府ノ對露「ノート」ト併セ極メテ憤慨的論說ヲ掲ゲ「ウ」ノ暗殺ハ露國ノ富源ニ垂涎シナガラ勞農制度ヲ敵視スル資本主義國家ノ使喚ニ過ギズトテ英國ノ「ノート」ヲ引証シ「カーゾン」一派ノ英露條約ノ破棄運動ハ白党宣伝ニシテ「ノート」ノ内容ハ自家撞着乃至露國ノ内政干涉ニ外ナラズト之等ノ諸點ヲ拳ゲ勞農露民ハ全ク全世界殊ニ英國勞働者ト共ニ斯ル蛮行ニ抗議シ平和ト勞農露國承認ヲ絶叫セザルベカラズト論ジ旺ニ英國勞働派其ノ他勞農同情派ノ論說記事ヲ列記シ自家宣伝ニ努メ且諸所ニ小規模ノ「ミーチング」ヲ催シ氣勢ヲ添ヘタルガ如シ当地及附近各地ノ軍隊ハ何レモ示威運動ヲナシ日曜ヲ幸ヒ幾分ノ勞働者モ加ハリ(本官目撃セリ)領内反革命派ノ陰謀ニ對スル脅威ト同時ニ對英抗議ノ意ヲ表シ十四日モ赤旗紙ハ引続キ号外ヲ發シテ英國議會及輿論ノ紛糾乃至露國各地ノ本件ニ関スル示威運動ノ狀況ヲ掲ゲ「クラシン」ガ英露關係調停ノ為十二日飛行機ニテ莫斯科出發倫敦ニ向ヒタル由ヲ報告セリ昨日ノ示威運動ハ赤軍部内ノ不平分子ガ近來脱走ヲ企ツルモノ続出ノ傾向アルニ依リ之等ニ對シテモ威嚇ノ意義ヲ有シ既ニ昨日赤軍々人中逮

捕セラレタル者相当ノ数ニ達セリトノ情報アルモ真偽未詳ナリ尤モ給養其他ノ点ニ於テ軍隊内ニ不平ノ声アリ地方農民又徴税ニ対スル不平反動ノ氣勢アルハ事実ナルガ如シ

註 渡辺總領事代理五月十三日發第三八一号ヲ省略セルガ右ハ浦潮ニ潜伏スト云ハルル反革命派ニ対スル示威運動ガ浦潮官憲ニ依リ軍隊ヲ繰出し行ハレタル旨ヲ報告セルモノナリ第三八五号電報冒頭ノ午後四時頃トアルハ五月十三日ノ午後四時頃ナリ

一八二 五月十四日 在独国日置大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

勞農露國トノ談判ノ要領、仏國ノ對露接近ノ
努力等ニ関スル独逸外務次官ノ談話報告ノ件

第一一一号 (五月十五日接受)

十二日外相晚餐會ニ於テ外務次官 Malzan ト露國問題ニ関シ腹藏ナク雜談シタルガ其内同氏ノ実験ニ基ク左記談話要領御參考迄ニ

(一)「ヨッフエ」ノ人物ニ付テハ「ゾルフ」大使モ好ク承知ノ筈ナルガ非常ニ鋭キ猶太人ニシテ彼トノ談判駈引ニ於テ勝利ヲ制スルコト容易ナラズ「ラパロ」条約談判ハ自分ガ「ヨッフエ」ヲ相手ニ行ヒタルモノナルガ當時自分ハ冒頭

離セントスルノ傾向アルヲ以テ仏國ハ「ファシユ」將軍ヲ送り波蘭ヲ慰撫シツツアリ

(二)仏國ガ露國ノ好意ヲ得ンタメ努力シ居ル一証拠ハ不思議ニモ今回「ルール」ニ於テ出現セリ即チ仏占領軍ハ例ニ依リテ露國注文ノ機關車等ノ輸出ニ干渉シ一旦之ヲ差押ヘタル処莫斯科ヨリノ談判ニ接シテ忽チ解除シ曖昧ノ間ニ露國行ノ分ダケハ爾後一切何等ノ故障ナク輸出サレ居レリ云々

一八三 五月十六日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

反過激派ノ策動ノ情勢ニ付在ニコリスク郡司
副領事ヨリ報告ノ件

第三九二号 (五月十六日接受)

郡司ヨリ左ノ通り

第三〇号

本電本省ヘ転電ヲ請フ

第二三三号

四五日前ヨリ市内ニ白色側ノ宣伝文頒布サレ政変説頻ニ起リ國境ニテハ赤白ノ戦闘アリトテ人心動揺シ居ル処右ハ最近当地ニ入り込ミタル白軍側密偵ノ暗中飛躍ニ依ルモノノ

ニ於テ彼トノ談判駈引ニ於テ勝ツ見込ナキコトヲ露骨ニ彼ニ明白シテ單ニ独逸側ノ基礎条件ヲ明確ニ提示シ之ヨリ一步モ讓歩セズト声明シテ形式其他ノ調理ヲ「ヨッフエ」ニ一任シテ成立シタリ併シ乍ラ彼ハ大量ノ人物ニシテ余リ小事ニ拘泥セズ

(二)「ボルセビツク」ト締結シタル条約ガ実行サレルコトノ確信ハ到底持ツヲ得ズ言ハバ彼等ハ「ヒステリー」症ノ婦人ノ如ク氣ニ向ケバ実行シ然ラザレバ実行セズト言フ狀態ナレバ「ボルセビツク」ハ treat スベキモ決シテ彼ト treaty ヲ結ブ可カラズ

(三)日露ノ間ニハ相当処理スベキ問題モアレバ「ボルセビツク」ニ於テ希望スル事モ有ルベシ之等ニ付一時的ニ解決ヲ得ルコトハ不可能ニモアラザルベキモ余リ広汎長文のノ如キモノヲ作ルハ不得策ナリト思考ス「ラパロ」条約ハ露國ニ對シ賠償金ヲ支払フコトヲ防止シタルト最惠國待遇ヲ得タルコトヲ以テ目的ヲ達シタルモノト吾人ハ考ヘ居レリ

(四)仏國ハ露國トノ關係ヲ成立セシメント目下密ニ努力中ナレバ恐ラク暮年ナラズンテ其實現ヲ見ルナラム此ノ事情ヲ感知シタル波蘭ハ忽チ英國ニ向ツテ秋波ヲ送り仏國ヨリ乖

如ク昨年秋当地ヨリ元山ニ逃レタル將校ニシテ今回白軍側ノ使命ヲ帶ビ当地ニ入込ミタリト稱スル者ガ旧知ノ一邦人ニ語リタル処ニ依レバ「ボセツト」付近ニハ約千五百名ノ白軍アリテ近ク当地方ニ侵入ス可ク自分ハ連絡ノ為当地ニ來リタル者ナルガ南方「ケドロフク」村ニハ百名北方「イリンカ」村ニハ四百名ノ完全ナル武装団アリテ白軍側ヲ援助ス可ク地方農民ハ白軍側ニ好意ヲ有シ居リ現ニ尼市付近ノ村団「ウオロスチイ」六ヶ所ヨリハ代表者ヲ以テ赤政權ヲ倒シ農民ヲ塗炭ノ苦シミヨリ救済アリ度キ旨申出デ來リ居リ且逃走セル赤軍兵士ハ全部白軍側ニ投降スルモノ故ニ日ニ増シ勢力旺盛トナリ政変ノ際ハ成功疑ナシト豪語セル由一般市民及鐵道従業員ノ赤政權ニ對スル反感ハ益々甚シク各官衙ニ勤務スル者モ四月分ノ俸給ヲ受領セザル故不満ヲ懷キ居レリ其ノ後赤軍兵士ノ逃走尚引続キ「ノーボ・ニコリスク」ニ於テ召集セル兵士ハ全部支那領ニ逃走セリ之ニ反シ國境ニ出沒スル白軍ノ勢力ハ旺盛ナルモノノ如ク情報ニ依レバ「プラトノアレキサンドロフ」「イリンカ」「カメンルイボロフ」白軍ノ勢力以内トナリタルモノノ如シ尚十一日「カメンルイボロフ」ニ戦闘起リ赤軍側ハ二三十名

ノ死傷者ヲ生ジタリト云フ

一八四 五月十六日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

労働者ノ対英抗議運動、一般住民ノ勞農政權

ニ対スル反感等ノ情勢ニ付在ニコリスク郡司

副領事ヨリ報告ノ件

第三九三号 (五月十七日接受)

在「ニコリスク」郡司ヨリ左ノ通り

第三一号

外務大臣へ転電アリタシ

第二三号

五月十三日午后三時当地停車場付屬工場ハ約一時間ニ亘リ
汽笛ヲ鳴シ鉄工鉄道従業員ノ非常召集ヲ為ストモニ赤布
ニ白ク「労働者外出セヨ」ト書キタル自動車ヲ市内目抜ノ
場所ニ運搬セシメテ住民ヲ驅リ出シ当市北方ノ広場ニテ軍
隊鉄道従業員各公私団体ヲ集メ「ミーチング」ヲ開キ軍隊
共産黨員鉄道従業員職業同盟等ノ代表者度々起チテ今回英
國ガ勞農政府ニ対シ最後通牒ノ要求ヲ為シタルコトニ関
シ悲憤慷慨の演説ヲ為シ最後ニ吾人「プロレタリアー

翌十四日多数ノ護衛兵ヲ付シテ当地ニ在リシ金錢ヲ奪多ニ
移セリトノ噂アリ尚又十四日夜当市中ニ強盜多ク或ル鮮人
ハ所有ノ金錢ヲ強奪セラレタリ聞ク処ニ依レバ最近当地方
形勢漸ク不穩トナリ一般住民ハ益々勞農政權ニ対シ反感ノ
念ヲ強メ来レルヲ以テ何等カノ機会ヲ得テ或ハ政變勃発ス
ベキカト推測セラル

一八五 五月二十九日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

グロデコフ付近ノ赤白軍ノ戦闘及ニコリスク

ニ於テ苛税ニ苦シム中国商人ニ付在ニコリス

ク郡司副領事ヨリ報告ノ件

第四五五号 (五月二十九日接受)

郡司ヨリ左ノ通り

第三九号

外務大臣へ転電アリタシ

第三〇号

五月二十七日当地停車場ニ「ボグラ」方面ヨリ負傷兵十数
名到着シ之ト同時ニ装甲機関車同方面ニ出発シタルカ情報
ニ依レハ右負傷兵ハ「グロデコフ」付近「ムモノーバヤ、

四 勞農露國ノ内政ト対外關係 一八五 一八六

ト」ヨリ成ル勞農政府ハ平和ヲ念トシテ条約ヲ履行シ来レ
ルニ関セズ資本主義帝國主義ノ英國ハ名ヲ条約ノ不履行ニ
藉リ最後通牒ノ要求ヲ為セル不法ニ対シ「ニコリスク」
市民ハ抗議スル旨ノ抗議文ヲ決議シ散会セリ翌十四日ニハ
当地北方露支國境「ツリログ」村ニ於テ農民ノ為殺サレタ
ル納税ノ「インストラクトル」一名國家政治部員三名ノ葬
儀アリ葬列ハ赤布ヲ以テ掩ヒタル棺ヲ乗セタル馬車四台ヲ
先頭ニ乘隊軍隊及前日同様強制的ニ召集セル各団体之ニ統
キ当地南方衛戍墓地ニ至リ此処ニテ埋葬シタルガ墓地ニ於
テハ埋葬ニ先チテ共産黨員起チテ右四人ノ者ハ白色「バル
チザン」即チ資本家帝國主義者ノ雇傭者ノ毒手ニ斃レタル
吾人無産階級者ノ名譽アル犠牲者ニシテ吾人ハ資本家帝國
主義者ヲ滅亡セザルベカラズトテ共産主義者一流ノ演説ヲ
為シタルガ右四名ノミナラズ他ニモ徵税ノ為村落ニ出張シ
殺サレタルモノアルヲ知レル公衆ハ共産黨員ガ斯ル悲惨ノ
最後ヲ遂ゲタルヲ当然ナリトシテ何等同情ナク勞農政府ニ
対スル反感日ニ増シ強烈トナリ居ル今日此仰仰シキ葬儀ヲ
見テ冷笑シ居レリ又十三日夜ハ少数ノ武装セルモノ当地監
獄ヲ襲撃シ衛兵等ヲ殺害シタル事件アリ之ガ為当地官憲ハ

「パッジ」ニ赤白軍ノ戦闘起リ赤側ニ多数ノ死傷者ヲ生シタ
ルモノノ一部ナリ

当地支那商務会ハ二三日前主ナル商人ヲ集メ露側ノ苛斂誅
求ハ日々甚タシク之ニ反シ商況ハ益々不振ニシテ当分恢復
ノ見込ナキ旨ヲ語り營業ヲ中止シ帰國方ヲ慫慂セリ

一八六 五月三十日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

グロデコフ付近ノ赤白軍戦闘後ノ不穩ノ情勢

ニ付報告シ白軍ニコリスクニ侵入ノ場合ノ措

置ニ付郡司ヨリ請訓ノ件

第四六二号 (五月三十一日接受)

郡司ヨリ

第四一号

大臣へ

第三一号

往電第三〇号「グロデコフ」付近ニ於ケル赤白軍ノ戦闘後
当地政權ハ援兵トシテ騎兵ヲ同方面ニ派遣セルモ共産党ニ
対スル反感ハ軍隊内ニモ弥漫シ居ルヲ以テ果シテ勞農政權
ノ為ニ戦フ可キヤ頗ル疑ハシ当地軍執行委員會其他ノ官憲

ハ「グ」ノ戰鬪以來大恐慌ヲ起シ動揺シ居レリ情報ニ依レバ白軍ノ前衛ハ既ニ当地ヲ去ル南方十八露里「ケドラフカ」及北方三十五露里「ストルゴイウカ」付近ニ在リテ近ク尼市ヲ襲撃セントシツツアリト云フ当地軍憲ハ「ミハイロアクスカヤ」及「ノウヲニコリス」村ニ馬車七百台ノ準備ヲ命ジ「アヌチノ」方面ニ食糧其他ノ運搬ヲ計画シツツアルノミナラズ最近ニ至リ重ナル「コミッサール」相次イデ当地ヲ去リ「ハ」府ニ赴キツツアルヲ以テ一般市民ハ近ク白軍侵入スルガ故ニ共產黨員ハ遁走スルナリト噂シ居レリ二十二日發行哈爾濱新聞ニ依レバ支那ハ東三省ニ於ケル赤軍防衛策トシテ白軍殘党ヲ国外ニ放逐セントシツツアル趣ナレバ右ガ果シテ事實ナレバ國境付近ニ在ル白軍ガ窮厄ノ余リ当地地方ニ侵入シ来ルハ已ムヲ得ザル処ナレバ將來狀況ノ推移ニ依リ当市ガ戰亂ノ巷ト化シ秩序紊亂シ生命財産ニ危險ヲ感ズルガ如キ場合ニ立至ルノ虞アル際ニハ在留邦人ニ對シ浦潮又ハ支那領ニ引揚ヲ命ジ然ル可キヤ時機ニ到達セバ通信ハ杜絶ス可キニ依リ予メ何分ノ儀御回電ヲ請フ

一八七 六月二日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮渡辺總領事代理宛(電報)

府ノ主ナル敵ナルヲ以テ政府ハ現在専心農民懷柔策ニ汲々タルコト(本秋莫斯科ニ開カルベキ全露博覽会モ又主トシテ農民懷柔ノ策ニ出デタルモノトス)(三)政府ハ財政ニ苦シムヲ以テ商工業者ニ重税ヲ課シ之ガ為折角許可ヲ得テ開店セシ商店モ統々閉店スルノ已ムヲ得ザルニ至リタルコト(四)政府ハマカリ間違ヘバ自己ノ直參タル赤兵ヨリ倒サルノ危險ヲ自ラ予期スルコト(五)政府ハ外ニ對シ表面威ヲ示スモ内心大ニ外トノ戰爭ヲ恐レ從ツテ外國トノ衝突ヲ自己ノ為不利トシテ危險視スルコト(六)露國現在ノ制度組織ノ下ニテハ普通ノ意味ノ對露貿易ハ不可能ナルコト(現ニ對露貿易ヲ有利ナリトシテ之ニ從事シタル外國商館ノ大部分ハ大損シテ中ニハ破産セシモノ鮮ナカラズ)等ニ関シテ一致スルモノ独リ樂觀者ハ右意外ノ出来事今後數年間勃發スルノ危險ナシトスルニ反シ悲觀者ハ之ガ危險近キニ在リトセリ此ノ点ヨリシテ在外露國避難民中右樂觀者ハ勞農政府ガ事實露國唯一ノ政權タル關係上避難生活ガ苦痛ノ余リ露國ニ歸リ同政府ノ下ニ働クノ外ナシトスルモ悲觀者ハ之ヲ非トシテ若シ歸國シテ其ノ下ニ働ク場合ニハ折角倒ル可キ運命ヲ有スル政府モ直ニ倒ルルコトナク更ニ或程度迄其命脈ヲ

白軍ニコリスクニ侵入ノ場合ノ措置ニ付在ニ
コリスク郡司副領事ヘ回訓ノ件

第二九二二号

郡司ヘ第五号

貴電第三一号末段ニ関シ

目下ノ処貴地ノ狀況左程切迫セリトハ思考セラレサルモ万一貴地ノ秩序紊亂シ居留民ノ生命財産ニ危險ヲ感スルカ如キ場合ニハ客年撤兵ノ際ノ例ニ倣ヒ居留民ノ引揚ヲ命スルコトナクシテ去就ヲ彼等ノ意思ニ委ネ引揚希望者ニハ機宜ノ便宜ト保護ヲ与ヘラルル様取計ハレタシ

一八八 六月四日

在リガ上田書記官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

リガニ於ケル各方面ノ人々ノ勞農露國ノ内情

ニ関スル觀測報告ノ件

第四号

(六月五日接受)

本官当地着後各方面ノ人ニ逢ヒ露國ノ内情ニ付所見ヲ糺シタルニ其ノ觀察ハ大体悲觀及樂觀ノ二ツニ分ルルモ右兩觀察ハ(一)勞農政府ノ運命ニハ限リアルモ何カ意外ノ出来事勃發セザル限り同政府ハ容易ニ倒レザルベキコト(二)農民ハ政

延バスニ至ル可シトセリ併シ乍ラ背ニ腹ハ替ヘラレザルヲ以テ其後右避難民中ニハ独リ樂觀者ノミナラズ悲觀者迄モ歸國スルノ已ムナキニ至リタル趣ナルガ最近ニ至リ彼ノ神經過敏ヲ以テ有名ナル猶太人ガ露國ヨリ当地ヲ經テ盛ニ米國其他ヘ移住スル為右避難民中ニハ之ヲ見テ右意外ナル出来事勃發ノ前兆ニハ非ズヤトシテ歸國ヲ思ヒ止ムル者少ナカラザル様子ナルモ一般ニハ今分ニテハ一寸意外ノ出来事勃發ノ模様ナシト觀測セラル

註 上田書記官ハ大正十一年六月公使館一等書記官ニ任ジ波蘭國在勤ヲ命ゼラレ十二年五月「リガ」ヘ出張ヲ命ゼラル

一八九 六月七日

在リガ上田書記官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露國ボルシェヴィキ政府部内ノユダヤ人派排
ユダヤ人派間ノ反目暗闘等ニ関スル情報報告
ノ件

第五号

(六月八日接受)

「ボルシェヴィキ」政府側ト關係ヲ有スル者ガ本官ニ語ル処ニ依レバ同政府部内ニハ猶太人派及排猶太人派ノ二派アルガ「レーニン」健全ニテ内外ノ政務ヲ統ベタル時代ニ在

四 勞農露國ノ内政ト対外關係 一九〇

リテハ兩派ノ争無カリシモ同人病氣以來兩派ノ反目暗闘激甚トナリ此ノ分ニテハ「レーニン」死ナバ兩派ハ大喧嘩ヲ始メ之ガ原因トナリテ政府ハ瓦解スルニ至ルヤモ保シ難シ猶太人派ノ牛耳ヲ執ル者ハ「トロツキー」ニシテ「カーメネフ」其他ノ猶太人ハ皆同派ニ属シ又排猶太人派ノ統領ハ「スターリン」ニシテ「ブハーリン」其他ノ露國人ハ同人ノ派ニ属ス「クラシン」ハ外国ニテハ声望アルモ莫斯科ニテハ何等勢力無シ莫斯科郊外雀ヶ岡ニ開カルベキ全露農工博覽会ハ内外隔着手段ニシテ其ノ主ナル目的ハ農民ノ人氣ヲ取ルニ在リ之ガ為政府ハ博覽会见物ヲ名トシ船車宿泊料ヲ官費トシテ全国ヨリ三十万人ノ農民代表者ヲ招待シ厚遇スルコトニ決シ目下歡迎準備中ナリト

本電及往電第四号英、仏、独及「ワルソウ」へ暗送セリ

一九〇 六月十八日

在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

露國政府承認問題ニ対スル米國政府ノ態度ヲ

示ス覺書ニ付報告ノ件

別電 同日埴原大使宛内田外務大臣宛電報第三八二号

右覺書

boards. Were this conception of the situation correct the appeal would hardly have been formulated. But the fact is that the establishment of a basis of permanent improvement in Russia lies solely within the power of those who govern the destinies of that country, and that premature political recognition tends only to confirm the existing situation and to perpetuate the ills from which the Russian people are suffering.

An attitude of non-compliance with the course of Bolshevik policy is strongly dictated, moreover, by considerations of international good faith. The property of American citizens in Russia, honestly acquired under the laws existing at the time, has been taken from them without color of compensation, without process of law properly speaking, by the mere emission of countless decrees.

This touches the very groundwork of intercourse among peoples, the bases of good faith among States as set forth for example in our own constitution.

第三八一号 極秘

（六月二十日接受）

六月十八日佐分利ハ國務省東歐羅巴部（旧露西亜）ニ於テ前日國務長官ヨリ大統領ニ提出セル對露問題覺書ヲ閱見スルノ機會ヲ得其内露國政府承認ニ関スル部分ノ写ヲ極メテ内密ニ貰ヒ受ケタル処右覺書ハ今回大統領カ「アラスカ」巡視ノ途中各地ニテ為スヘキ演說等ノ材料トシテ國務省ノ作製セルモノニテ別段新規ノコトハ之レナキモ承認問題ニ関スル米國政府現下ノ態度ヲ知ルノ好資料ト認ムルニ付別電第三八二号（極秘取扱）ヲ以テ電報ス本電ハ別電ト共ニ在欧各大使及瑞典波蘭へ郵送ス

（別電）

六月十八日付在米國埴原大使宛内田外務大臣宛電報第三八二号

右覺書

第三八二号

（六月二十日接受）

There have been those who have urged the administration to grant political recognition to the regime now in control in Russia on the plea that the destitution of the Russian people would thereby be put in the way of alleviation and that this humane appeal was so urgent that all other considerations should go by the

As time goes on and as more information is forthcoming in regard to conditions in Russia, the consistent policy adopted by this Government in insisting upon the admission by the Soviet Government of certain fundamental and basic principles, as a condition precedent to recognition, seems to have been wisely conceived—certainly from the point of view of the United States and probably also in the effect it has upon Russia itself.

Hanihara.

一九一 六月十九日

在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ホウィーラー米國上院議員ノ露國政府承認論

ニ関スル國務省係官談報告ノ件

第三八三号

（六月二十一日接受）

往電第三八一号國務省係官談中佐分利ヨリ近時露國內ノ狀態改善セリトノ報道伝ハリ現ニ最近露國ヨリ帰來セル「モンタナ」州選出上院議員 Wheeler ハ頻リニ承認論ヲ唱ケ居ル処（六月九日新聞報及六月七日付公第四五〇号往信参照）右ハ如何ニ考ヘルヤト質問シタルニ係官ハ國務省ハ在

「リガ」米国公使館ヲシテ露國ニ関スル情報ヲ蒐集セシメ専ラ其ノ報告ニ信賴シ旅行者ノ視察談等ニハ重キヲ措カス露國官憲ノ世話ニテ露國ヲ旅行スル者ハ鉄道沿線ノ状況ノミヲ視察シ病院工場商店等宣伝ノ為特ニ整頓シアルモノノミヲ見セラレ「ホテル」ニ於テハ知ラサル間ニ一般ト異ナル待遇ヲ受ケテ還ルカ故ニ毫モ露國ノ真相ヲ伝ヘス加之是等視察者ノ多クハ元來承認論者ニテ視察前ヨリ自己ヲ「コムミット」シ居リ帰來後モ自然自分ノ立場ニ都合好キ意見ヲ發表スル実情ナリ「ホウィーラー」氏ハ旅行中全然露國ノ宣伝ニハ迷ハサレ多少真相ヲ看取シタルカ如クニシテ同氏カ露國退去後間モナク「コーペンハーゲン」ニ於テ露國內ノ事情ニ付同地米国公使 Prince ニ談話シ同公使ヨリ國務省ニ報告シ來レル処ハ同氏カ歸米後新聞紙ニ發表セル樂觀説トハ全然相違シ居ル旨ヲ内話セル趣ナリ右「ホウィーラー」ノ談話ハ本邦通信員ヨリ本邦ニ打電シ居ルニ付旁為念右電報ス

一九二 七月一日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

浦潮ヨリ派遣ノ白軍殘党討伐隊オホツク市平

大正十二年七月十二日

在米

特命全權大使 埴原 正直(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

大統領ノ對露意見ニ関スル件

大統領「アラスカ」旅行ノ際ニ於ケル演説資料トシテ過般國務長官ヨリ露國承認反對意見ヲ大統領ニ提出シタル次第ハ曩ニ電報ヲ以テ及報告置候処其後大統領ハ六月二十九日「モンタナ」州ニ於ケル演説中露國ノ現状ヲ評シテ狂氣的經驗ノ大失敗ト為シ又民主主義ノ下ニ於ケル專制政治ト為シ「ポリシエヴィズム」反對ノ意見ヲ表明致候(六月三十日付公第五二八号付屬書参照)其前日大統領ノ「アイダホ」州(露國承認論者タル上院議員「ボラー」ノ選出地)通過ノ際同州知事カ其歡迎演説中州民ハ王モ「ソヴィエット」モ容認セスト述ヘタルニ對シ當時大統領ハ何等露國問題ニ言及スル所ナカリシガ翌日其隣州「モンタナ」(上院議員候補者「ホウィーラー」ノ選挙地ニシテ同人ハ過般露國視察旅行ヨリ歸來露國承認論ヲ唱道セリ)ニ於テ前記ノ如ク「ソヴィエット」反對ノ意見ヲ表明シタルハ場所柄頗ル

定後アヤン港地方ヲ鎮定シオホツク方面一帶
ソヴェト治下ニ歸シタル件

第五二〇号 (七月二日接受)

往電第五〇五号白軍殘党討伐隊ノ一半ハ「オホツク」平定後汽船「インデギルカ」号ニテ六月十七日「アヤン」港ニ至リ白軍本部ヲ奇襲シ流血ナク「ヂヂリヤノフ」將軍以下將校約百四十、卒略々同數其他ヲ併セ計三百五十六名ヲ捕虜トシ同地方ヲ鎮定「ソヴェト」機關ヲ設置ノ上守備兵ヲ殘シ六月三十日無事当地ニ帰航セル旨當県機關紙ハ發表セルガ之ニテ「オホツク」方面一帶モ遂ニ「ソヴェト」治下ニ歸シタル次第ナリ

註 渡辺總領事代理六月二十一日發第五〇五号省略セルガ右ハ浦潮ヨリ派遣ノ白軍殘党討伐隊六月六日「オホツク」市ヲ完全ニ占領シ赤白共多少ノ死傷者ヲ出シ白軍隊長ハ自殺シ其ノ他ノ生存者約七十名ヲ捕虜トセル旨ヲ報告セルモノナリ

一九三 七月十二日 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛

ハーディング大統領ノ露國政府承認反對演説

ニ関シ報告ノ件

機密第七九号 (八月九日接受)

一般ノ注目ヲ惹キ候

右ニ関シ國務省東欧部長ハ佐分利参事官ニ對シ從來大統領ノ對露意見ハ鮮明ヲ欠キタル処這回ノ演説ニ依レハ愈其露國承認反對ノ決心ヲ固メタルモノト思考セラルル旨内話シタル趣ニ候

右御參考迄及報告候也

一九四 七月二十四日 在米國埴原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國ハ依然露國ヲ承認スルヲ得ストヒューズ

國務長官コンパースノ質問ニ對シ回答ノ件

第四五四号 (七月二十六日接受)

米國政府ノ對露態度ヲ質問シタル Gompers^(註)ノ書簡ニ對シ今回 Hughes ハ米國トシテハ依然露國ヲ承認スルヲ得ズトノ趣旨ニテ回答セル旨發表セラレタルガ右回答文大要左ノ如シ

即チ露國ノ政治經濟ハ專制且破壊的ニシテ今尚言論ノ自由ヲ始メ各種人民ノ權利ヲ認メズ且財産ヲ迫害スルノミナラズ勞働ヲモ徵発シ勞働団体ハ消滅セリ米國ハ他國ノ内政ニ干渉センコトヲ企図スルモノニアラザルモ一國ノ承認ニハ

國際交通ニ關スル各種ノ義務中他國人ノ生命財産ノ保護及他國ニ對スル敵對的宣伝ノ廢止ヲ最モ重シトスル処露國ハ之等國際交通ニ固有ナル義務ヲ否認スルノミナラズ國際交通ノ根本原則ヲ無視シツツアリ即チ米人ノ生命財産ノ安全ニ關シ何等ノ保障ヲナサズ米國ニ對スル債務ヲ破棄シ且募集セラレタル米人ノ外債ニ對シ何等ノ補償ヲ与ヘズ今ヤ如上ノ制度ハ補潮ニ及ベリ加之莫斯科政府ハ今尚企圖ヲ放棄セズ一切ノ現存政府覆滅ヲ画策シツツアリ斯クノ如ク内外共ニ破壊的ナル精神ノ存在スル限り仮令其ノ經濟狀況ガ一時的好況ヲ見又ハ現政府永続ノ見込アリトモ到底米國ヲシテ其ノ露國承認ニ關スル態度ヲ變更セシムルニ足ラズ

註 ゴンパースハ米國勞働同盟會長

一九五 七月二十四日 在米國植原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院議員ブルックハートノ露國承認論及
ワシントン・ポスト紙ノ反對論ニ付報告ノ件

第四五五号 (七月二十六日接受)

本月十七日共和党上院議員 Brookhart 露國其他歐洲諸國ノ視察ヨリ歸來露國問題ニ言及シ露國ハ之ヲ承認スルヲ可

米國國務長官ヒューズノ露國政府承認反對声
明ニ對スル米國新聞論調報告ノ件

第四五八号 (七月二十六日接受)

二十四日新聞報

「ヒューズ」ノ對露問題ニ對スル声明ニ付テハ諸新聞概ネ之ニ賛意ヲ表シ一般米人ハ到底現在ノ露國承認ヲ肯セサルヘシトテ米國並ニ米國人ハ露國人自身ニハ同情ヲ禁セス從ツテ救済事業等之ヲ辭セサルモ内ハ個人ノ自由ヲ認メス外ハ國際義務ヲ否認シ世界革命ヲ企圖スルカ如キ誠意ナキ少數專制ノ「ボルシェビキ」政府ハ之ヲ承認スル限りニ非ストナシ Brookhart ヲ始メ三四ノ米國議員ハ何レモ過激派ニ依リ目ヲ晦マサレ居ルモノナリト論セリ尚民主黨系統ノ紐育「タイムズ」ハ「ヒューズ」カ「レーニン」「トロツキー」等ノ演説ヲ引用シ彼等ノ言説ニ顧ミス世界革命ノ企圖ヲ拋棄セサルモノナリ云々ト為セルハ文字解釈ニ拘泥セルノ嫌アルモ勞働者共和國ノ仮面ヲ被レル露國寡頭政治ニ對スル吾人ノ態度ヲ率直ニ表明セルモノニシテ「ヒューズ」ノ声明ハ之ヲ多トスヘシト為シ又「バルチモア・サン」ハ現在米國ニ於テハ直ニ露國ヲ承認スヘシトノ感情無キノミ

トス蓋シ其經濟狀態ハ着々回復シ其政府ハ歐洲ニ於テ最鞏固ノ政府ト謂フベク國內総人民ハ之ヲ支持シ居レリト語リ次イデ「ヒューズ」ニ面会シ露國承認ノ必要ヲ力説シタル旨伝ヘラレタルガ「ヒューズ」ニ於テ露國ノ承認ヲナシ難キ旨声明セル次第ハ往電第四五四号ノ通りニシテ右声明ハ同時ニ Brookhart ニ對スル回答トシテ目セラレ居ル処二十三日ノ当地「ポスト」ハ Brookhart ニ於テ露國承認ヲ主張シ右承認ガ歐洲ノ事態ヲ解決シ且米國ノ小麦輸出ヲ容易ナラシムルモノト思考スルモノナルベシト雖一般米國人ハ然リトハ信ゼズ Communist ノ使節ガ米國政府顛覆ノ陰謀ヲナス為ニ渡來スルヲ許サザルベク雖 Brookhart ガ其(不明)ノ農民ノ氣ニ入ラザルヲ見ルニ至ラン米國ハ容易ニ莫斯科ノ餌食トナルガ如キ且其ノ進撃ニ脅威セララルコトナク露國政府トシテ莫斯科ヲ承認スルコトニ依リ過激派ヲ援助スルガ如キコトヲ為サザルベシ莫斯科ハ未ダ其政府承認ノ第一要件タル誠意ヲ示サズ彼等過激派ハ米國ヲ以テ Communist ノ敵ト目シ居レリト論ズ

一九六 七月二十四日 在米國植原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ナラス露國カ國際關係ニ於テ誠意ヲ示ササル限り承認ノ氣運起ラサルヘキハ云フ迄モ無キ所ナルカ「ヒューズ」ノ声明ハ徒ラニ學究的ニ走リ事實ヲ極メス臆測乃至疑惑ニ捕ハルルヤノ觀アリ現在米國ノ承認セル諸國ニ於テモ個人ノ自由ノ迫害ヲ見ルコトアリ將又何レノ國ニ於テモ或ル時機ニ於テハ之ヲ見タリト論ズ

英國新嘉坡防備ニ關連シ本日ノ紐育「ヘラルド」華府特信ハ國務省並ニ海軍省當局ハ英國ノ新嘉坡海軍根拠地築造計畫ニ付テハ論議ヲ為シ居ラス寧ロ華府會議後ニ於ケル日本ノ小笠原島防備ノ完成ニ急ナルニ注意ヲ向ケ且和蘭ノ東印度方面ニ對スル海軍擴張計畫ニ興味ヲ有シ右ハ英國ニ對スルモノナラスシテ極東ニ於テ和蘭ヲ好マシキ同盟ト為サンカ為ナルヘシト為シ居レル旨ヲ報ス尚紐育「タイムズ」ハ本日ノ社説ニ於テ和蘭ノ海軍擴張案ハ英國ノ擴張案ニ對抗スルモノトハ思考セラレス唯蘭領東印度ノ最近ニ於ケル經濟発達上防備ノ手薄ヲ感スルニ至レルニ依ルモノタルヘシト「グレー」ノ説明ヨリスルニ新嘉坡ノ海軍根拠地ハ單ニ印度ノ東方前衛タラシメントスルニ過キス而シテ印度ハ東方ヨリハ唯一ノ強國ニ依リ脅威セラレ居ル処右強國

カ即チ蘭領東印度ノ安全ノ問題ニモ關係アルコトハ之ヲ忘ルヘカラス同時ニ拿破崙戰爭時代ニ英國カ自衛上蘭領植民地ヲ占領其ノ儘之ヲ領有スルニ至レル経緯モ考量スルヲ要スヘシト論ス

一九七 八月十三日 在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

カリニンノ来浦ニ対スル歡迎振リ、演説ノ模様等報告ノ件

第六二一号

(八月十四日接受)

往電第六〇七号「カリニン」来浦ニ関シテハ爾来当地新聞ハ盛ニ「カ」ノ経歴功績途中ノ消息等ヲ連載シ市内官公衙商店等歡迎ノ準備ニ努メタルカ一行カ沿道ノ歡迎送ノ為予定ヨリ遅レ十日来着スルヤ着車ト共ニ当日全市ハ殆ト大祭日ノ觀ヲ呈シ多数民衆街上ニ出テ文武官憲軍隊各団体及在留日支民団代表者等ニ迎ヘラレ駅前広場ニ於テ直ニ「ミーンチング」ヲ開キ前記代表者等ノ挨拶「カ」ノ答辭(別報)ヨリ閱兵式ヲ終ヘ各工場、労働団体、埠頭等ヲ巡視シ晚ハ市県「ソビエイト」其他ノ連合大会ニ臨ミ(本官郡司及独逸領事出席)多数代表者ノ熱誠ナル歡迎ノ辭(朝鮮人代表

ハ殊ニ目立テリ)ニ対シ政府ノ報告演説ノ代リトシテ自己ノ極東觀ヲ述ベ露民ニ対シ優秀ナル共產主義ニ依リ生産力ノ發達、勞力ノ増加ヲ奨励シタルカ就中極東ノ現勢ト日露ノ關係ニ関シテハ最重キヲ置キ極東ニ被圧伏民族トシテ露、支、鮮、三アルニ対シ庄迫者トシテ日、英、米ノ三アルヲ指摘シ殊ニ日米兩國ハ互ニ極東ニ勢力ヲ争ヒ米ハ日ヲ抑制勞々曩ニ出兵以テ露國民心ヲ收攬シ自己ノ勢力扶植ヲ図ルカ如キ狡猾ナル策ニ出テタルモ日本ハ二十年來ノ膨張ニ伴レ「ブルジョア」ノ慾ニ驅ラレテ政府カ反「ソビエイト」的干涉ノ暴虐ナル政策ヲ持續シタル為露民ノ怨ヲ招キタルモ兩國民ハ何等敵意ヲ有セス兩國ノ利害反セス吾人ハ日本ノ資本ヲ歡迎スルニ依リ相互利益ノ為日本ノ社会カ速ニ自覺シ近キ将来ニ於テ兩國ノ間ニ自然ノ要求タル善隣關係ノ設定セラレンコトヲ企図ス云々熱心ニ説キ休会後ノ多数質問ニ対シ一々明答ヲ与ヘ(別報)タルカ本大会ハ右「カ」ノ演説ニ対シ服膺ノ旨決議シタリ「カ」ハ爾來付近村落ノ民情ヲ觀察シ軍隊及行政庁會議等ニ臨ミ各方面ノ巡視ニ多忙ヲ極メタルカ彼今次ノ来東ニ於テ特ニ注意ニ値スヘキハ到ル処ニ罪人ノ特赦ヲ行ヒ民心ノ緩和ヲ図リ民衆ト

親シク接触シテ最モ平民振ヲ發揮シ庶民又彼ニ対シ熱誠ナル親愛ノ意ヲ表シ居ルモ労働者等ニ於テ我利説ヲ為ス如キ者ニ対シテハ最モ之ヲ戒メテ産業經濟復興ノ為極力自制スヘキヲ説キ技術専門家ノ優遇ノ要ナドヲ論スナド殆ト勞農帝王ノ態度ヲ示セリ本官ハ既報ノ通「カ」ニ会见ヲ申込置キタル処未承認ノ領事ナルト時間ノ都合トノ理由ニテ体好ク断ハラレ其ノ代リトシテ別報ノ通齊多革命委員會副議長「マトウエフ」ト会见セリ「カ」ハ十二日夜出発黒竜線ヲ經テ歸齊ノ途ニ就ケリ

一九八 九月二十二日 在満州里田中領事代理ヨリ
伊集院外務大臣宛

関東大震災ヲ機ニ日本紙幣ヲ当方面ヨリ驅逐セントスル計画ニツキ報告ノ件

機密公第五一号

大正十二年九月二十二日

在満州里

領事代理 田中 文一郎(印)

外務大臣男爵 伊集院 彦吉殿

露國ノ邦貨驅逐計画ニ関スル件

四 勞農露國ノ内政ト対外關係 一九八

在「チタ」極東銀行理事長會長「ペルラツキイ」ハ同行簿記係秘書役及「モスクワ」国立銀行在外正貨係長等同伴金塊約七十貫ヲ携帶シ本月二十一日当地通過哈爾濱ニ向ヘルカ同銀行關係者ノ内話ニ依レハ一行ハ浦潮ニ至リ極東銀行及国立銀行支店ノ状態並ニ日本震災ニ因ル財政經濟上等ノ影響調査ノ上上海ニ至リ同地ニ極東銀行支店ヲ開設スル由ナリ
今次関東震災ニ関スル報道「チタ」ニ達スルヤ同地極東革命委員會機關新聞ハ社説ニ於テ震災ノ結果日本ハ大損害ヲ受ケ第二等国ニ入ルヘク然ラストスルモ日本ノ經濟状態ハ困難ニ陥ルヘク沿海県方面ニ流通スル日本紙幣ハ下落スヘキヲ以テ此際露國当局トシテハ既ニ極東ニ流通セシムルコトトセル国立銀行兌換券「チエルボンツイ」ヲ広く流通シ日本紙幣ヲ驅逐スヘシトノ意味ヲ論述シ前記極東銀行理事會長「ペルラツキイ」ノ如キモ日本今後ノ勢力減退ヲ極度迄悲觀的ニ予想セル談話ヲナシ居リシカ其後同人ハ在哈爾濱同行支店ノ有スル邦貨約百七十万円ノ始末ノ為急遽哈市ニ赴ケルモ邦貨ノ価値ハ極メテ輕微ノ變動ヲ示シ何等根本的影響ヲ認メサルヲ現認シ「チタ」ニ引返シタル由ナルカ

四 勞農露國ノ内政ト對外關係 一九八

「チタ」方面ニ於ケル当局ハ未タ我經濟界減勢ノ信念ヲ持シ居ル情形ナルニ依リ同人等今回ノ浦潮行ハ此際幾分ナリトモ日本貨ノ流通範圍ヲ縮少シ出来得ヘクンハ之カ驅逐策ヲ講シ「チェルボンツイ」ノ流通ヲ確実ナラシメ尚所持ノ金塊及邦貨ハ従前ノ例ニ依リ米國金貨トナシテ貯藏シ若シ

一三四

クハ露國內ニ輸送スルモノニアラスヤト思考セラル
右御參考迄ニ報告申進候 敬具

本信写送付先 在哈爾賓總領事

事項五 日露國交回復交渉關係

1 後藤・ヨッフエ會談

一九九 一月四日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

チタ方面ノ經濟狀況實地視察及ビ通商協約交
渉下準備等ノ為メ島田副領事ノチタ行ヲ懇懇
セル勞農代表者ノ談話報告ノ件

機密第壹ノ一号 (一月十五日接受)

大正十二年一月四日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

「ポゴージン」島田會談ニ関シ報告ノ件

最近浦潮ニ赴カントシテ当地勞農代表「ポゴージン」方ニ
査証ヲ願出デタル邦人長谷川録三郎(元陸軍通訳)侮辱セ
ラレタル由申出ニ接シタルニ付島田副領事ハ先般負傷シタ
ル際「ポ」ヨリ受ケタル見舞ニ對スル答札並今回「ポ」ノ

五 日露國交回復交渉關係 一九九

付近(島田ノ宿舍ハ「ポ」ノ宿舍ヨリ約二丁ノ処ニアリ)

ニ移転シタル通知トヲ兼ネ十二月二十九日「ポ」ヲ往訪シ
タルニ右會談終了後彼ハ滿鉄社員大沢準外一名ノ歐露行ヲ
許可(十二月二十八日古沢滿鉄公所長ノ談ニヨレハ右ハ事
実ナリト)シタルガ他ニモ歐露行希望ノ日本人多キ由ヲ述
ヘ日露兩國々交モ現今ノ儘放置スルコトハ好マシカラズ目
下漁業ニ付浦潮ニテ交渉ヲ開始セントシ又林業代表者ハ知
多ニ赴ク等弗々実行ニ取掛リ居レルモ要スルニ日本側ヨリ
樺太問題ニ付何等カ申出ニ接セザル間ハ兩國談判ノ開始ハ
實現覺束ナシ自分一個ノ考ヲ云ヘバ本件ニ付「ヨッフエ」
ヲ度外視スルヲ得ズサレド同時ニ日本側ガ直接「ヨッフエ」
ニ對シ何等カ積極的態度ヲ執ルコトモ行懸上出来マジ就テ
ハ貴官(島田)ニシテ此際往復數ヶ月ノ期限ニテ知多ニ出
張セラレテハ如何彼地ニハ極東革命委員會アリテ極東ヲ支
配シ居レリ而シテ一方經濟狀況其他實地ヲ視察セラルルト
同時ニ他面兩國通商協約ニ関スル下準備ヲセラルルコトト
シテハ如何右ニ對スル中央政府ノ意見ハ知ラザルモ予ノ考

一三五